

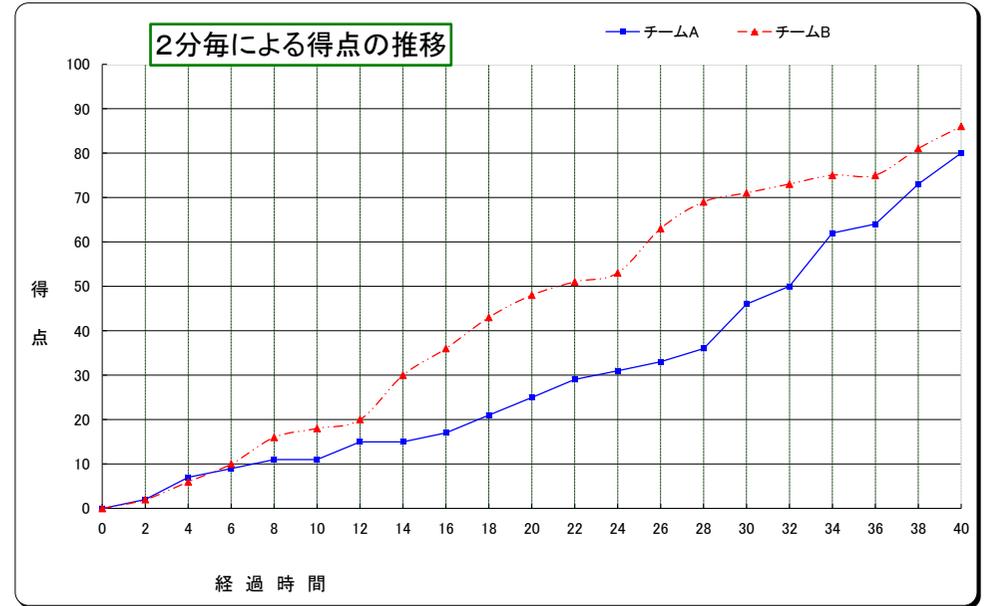
# 平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)  
深谷ビッグタートル  
Aブロック1回戦

チームA	80	{	11	1st	18	}	86	14	2nd	30
八王子学園八王子 (東京)			21	3rd	23			34	4th	15

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	根本 拓真	15	3	8	3	13	0	0	3	2	4	1	7	0	7
5	オト 輝恵	8	0	0	4	10	0	1	2	3	6	1	2	1	2
6	黒谷瑛太郎	16	1	3	5	7	3	5	4	5	4	0	5	0	6
7	ドウドウ ゲイ	31	5	14	8	9	0	0	2	5	10	0	1	1	3
8	勝田 賢汰	6	0	2	3	5	0	0	2	1	3	1	0	0	5
9	久松 勇斗	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
10	柘木 晃	0													
11	鴫田 風真	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2
12	木村 圭吾	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13	遠藤 涼真	0													
14	川畑 輝	0													
15	ババカル アイダラ ジャロ	4	0	0	2	6	0	0	0	0	5	0	2	0	7
16	野村 弘樹	0													
17	石川 竜生	0													
18	菅野 恵登	0													
コーチ	石川 淳一									5	5				
		80	9	29	25	50	3	6	15	22	38	3	17	2	36
		確率	31.0%		50.0%		50.0%		計		60				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	上原 敬太	7	0	3	3	4	1	2	2	0	0	3	10	0	6
5	大野 力	21	0	0	8	15	5	6	1	1	1	4	3	1	2
6	渡邊 陸	23	5	14	4	7	0	0	2	2	5	6	4	0	1
7	山口 裕毅	16	4	13	2	4	0	0	1	1	1	2	1	0	3
8	星野 太我	15	0	4	7	12	1	3	1	2	4	4	0	1	1
9	坪田 悦正	0													
10	砂見 悠吏	4	0	1	2	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
11	荒井 響斗	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0
12	田島 悠斗	0													
13	後藤 文哉	0													
14	成瀬 和哉	0													
15	園田 開	0													
16	中尾 圭希	0													
17	田中 壱平	0													
18	谷原 悠仁	0													
コーチ	大久保 英人									4	12				1
		86	9	35	26	48	7	11	9	10	24	19	18	2	14
		確率	25.7%		54.2%		63.6%		計		34				



## 戦評

長身の外国人留学生を有する去年の覇者、八王子に挑むのはスピードを生かしたアグレッシブな攻撃が身上の西武文理である。

第1P、両チームともにマンツーマンディフェンスでスタートする。固さのみえる両チームであるが八王子#15のインサイド、#6の3Pシュート、西武文理#8の速攻からのレイアップシュートで得点し互角の戦いになる。中盤から八王子のミスが目立つようになり、西武文理#5のジャンプシュート、#7のレイアップシュートでリードする。

第2P、八王子の#4の連続得点で流れを引き寄せる。しかしここからミスを連発してしまう。このミスを西武文理は逃さず#6、#7の速攻からのレイアップシュート、3Pシュートでリードを広げていく。15対32となったところで八王子はたまたまタイムアウトを請求する。八王子はマッチアップゾーンディフェンスでリズムをつかもうとする。しかし西武文理は巧みなパスワークでこれをかわし、#6、#7の3Pシュート#5のジャンプシュートでさらに点差を広げていく。西武文理#7のブザービートの3Pシュートが決まり、23点リードで前半を折り返す。

第3P、八王子は前半温存していたエースプレイヤー#7を投入し、逆転を狙う。#7の3連続得点で点差を縮めにかかるが、前半から好調の西武文理#6の3Pシュートが高確率で決まり、リードを広げていく。一時は30点以上リードが広がり勝負あったかに見えた。しかし終盤に八王子#4、#7の3Pシュートが連続で決まり、25点差に縮めて最終ビリオドへ。

第4P、八王子#4、#7の3Pシュートが連続で決まり、徐々に八王子の追い上げムードになる。西武文理は八王子のマッチアップゾーンディフェンスに苦むようになり、これまで好調だったシュートが決まらなくなる。八王子#7がドライブインシュート、3Pシュートで着々と加点し点差が縮まる。点差が13点となったところで西武文理はタイムアウト。しかし八王子の勢いは止まらず#7が内外角と得点を重ねていく。西武文理は焦りがでてミスが多くなる。終盤に2点差まで八王子が詰め寄る。このまま逆転かと思われたが、ここで西武文理#7の3Pシュートが2本連続で決まり、落ち着きを取り戻す。最後まで必死に追撃をする八王子であったが、西武文理は時間をしっかりと使って逃げ切った。

記録者: 柘木 毅